

2019
冬季号

ほっと石川



特集

石川の企業を全力応援!

INTERVIEW

宇山芽紅さん 森ひかるさん

(トランポリン選手)

積極的なチャレンジを!!

特集
石川の企業を
全力応援!

Contents 目次
2019 冬季号

経済情勢のいい “今”こそチャンス

石川の基幹産業であるものづくり分野をはじめとした中小企業の皆さんの頑張りで、県内の経済はかつてないほどの勢いを見せています。こうした中、県では、経済情勢のいい“今”こそ、一層の飛躍に向けた絶好機と捉え、意欲ある企業を積極的に後押しする新たな取り組みをスタートしています。きめ細かな産業振興策で、ふるさとの産業に活力を吹き込みます。



金沢港ではコンテナ貨物の取扱量も増えています



小松空港からも国際貨物便で世界へ出荷



首都圏や海外などへの販路

開拓も後押し



ものづくりは石川の基幹産業の一つ

特集
石川の企業を
全力応援! 2

平成の30年間を振り返る
県政のあゆみ 8

冬のお出かけ情報
おすすめのスポット&
イベント 12

INTERVIEW
宇山芽紅さん、森ひかるさん
(トランポリン選手) 14

知事の窓 15

ほほえみ 石川のボランティア
声のボランティア
(内灘町) 15

Information
結婚を予定されている
カップル、新婚夫婦の皆さんへ
婚パスはお持ちですか? ... 16

Interview

県産業政策課
課長補佐

山出 光司さん

意欲あふれる取り組みを県も全力で応援します!

県内企業の皆さんの積極的な取り組みを支援し、石川の経済の勢いを持続させ、さらに高めていくことは、県にとって大きな使命と言えます。今年度スタートしたチャレンジ支援ファンドやAI・IoTに関する総合支援は、そのための目玉です。新たなファンドによるものづくり企業への支援を手厚くしたり、人手不足に悩む生産現場にAI・IoTといった新技術を導入して生産性向上を図ったりするなど、支援内容は非常に手厚いものになっています。

経済情勢のいい今だからこそ、新たな“チャレンジ”ができるとも言えます。県では、意欲ある県内企業のチャレンジを、全力で応援していきます。



る競争力の強化」です。新たな事業展開の促進に関しては、今年度「いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンド」を創設し、新製品の開発などの新たな事業拡大に取り組む企業を資金面からサポートしていきます。生産性向上による競争力の

強化については、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)の導入に向けた総合支援が柱です。これらの技術の活用を資金・技術・人材育成の面から支え、県内企業の生産性を飛躍的に向上させていきたいと考えています。



県内のものづくり企業では生産が拡大中

石川県の今の経済情勢は、全国でもトップクラスであり、日本銀行金沢支店が北陸の景気を14カ月連続で「拡大している」と判断するなど、かつてないほどの勢いがあります。景気が拡大しているのは、

好調な石川の経済
製造業がけん引

新事業展開の促進と
生産性向上が重要

景気のいい今だからこそ、さらなる成長のチャンスと捉える中小企業は多く、県では企業の積極的な挑戦を後押ししています。支援策の中心となるのが、「新たな事業展開の促進」と「生産性向上によ

北陸新幹線の金沢開業効果が持続していることもあり、大きな理由として挙げられます。2015年の県内中小企業の製造品出荷額は10年と比較して約1.3倍で、全国平均(約1.1倍)を上回る伸びを示し、石川の経済のけん引役となっています。

表紙について

■シリーズ
ふるさと心の風景

能登のアマメハギ
(能登町、輪島市)

昨年11月、「能登のアマメハギ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産への登録が決まりました。能登のアマメハギは、能登町秋吉(表紙)や輪島市門前町皆月に伝わる「アマメハギ」と、夫婦の神が家々を巡る輪島市の「面様年頭」があり、新年に欠かせない儀礼として各地域で大切に受け継がれてきました。今回のほっと石川では、平成の約30年間に及ぶ県政のあゆみを振り返っています。平成も残り約3カ月。能登のアマメハギのように、県民の皆さんが新しい時代に受け継いでいきたいふるさとの宝は何ですか。この機会にぜひ考えてみてはいかがでしょうか。

表紙イラスト制作 / 吉野 武(金沢市在住)

Report チャレンジ企業

チャレンジ支援ファンドの採択を受け、
新たな事業展開を進める3社にお話を聞きました。

Report 1 | ホクショー (金沢市)

人手不足に悩む物流倉庫向け「無人搬送車」を開発

さまざまな物流搬送システムを手がけるホクショーが開発に取り組むのが、物流倉庫向けの「無人搬送車 (AGV)」です。近年、ネット通販市場の拡大で物流倉庫での仕分け作業は増加傾向にあるものの、作業員が台車を押しながら倉庫内を回って商品を一つずつピックアップしているため、人手不足に悩む現場が多い状況です。

同社では、無人搬送車が商品を保管する棚まで移動し、棚を持ち上げて作業者が仕

分けを行う場所まで運ぶ仕組みを考えています。これにより作業員が倉庫内を移動し運ぶ手間が省け、作業の大幅な効率化につながります。

さらに、無人搬送車は高さ300ミリ以下と小型で、搬送の必要なあらゆる現場での需要を見込んでいます。

1: 開発中のAGVは500キロまで持ち上げられます
2: 同社のチャレンジをリードする北村宜大社長



12月に行ったチャレンジ支援ファンド採択式の様子

活性化ファンドで商品化された事例



石川県の伝統工芸を生かしたIT機器の新商品開発

和紙を織り込んだ生地を開発・販路開拓

Report 2 | シラエ織産 (かほく市)

世界初、織機で付けまつ毛を生産

120ミリ以下の細幅織物(※)を得意とするシラエ織産では、培ってきた技術力を武器に世界で初めて織機での付けまつ毛の生産に乗り出しています。付けまつ毛はヨーロッパを中心に巨大な市場が広がっているものの、その生産量のほとんどを東南アジアでの手作業に頼っているのが現状です。

「織機で生産することで、生産効率は100倍近くに高められます。布は本来、縦糸と横糸が重なってできています。付けまつ毛にす

るには、縦糸を抜いて織り込むなど、技術的な課題はたくさんありましたが、試行錯誤の中で商品化が見えてきました」と話すのは白江智昭代表。チャレンジ支援ファンドを生かし、ラインアップの充実や販路開拓などに取り組んでいるところで、2年後をめどに商品化を実現する考えです。

※下着のウエスト用ゴムやサポーターなどの素材となる幅の細い織物

1: ナノ単位の調整で付けまつ毛を開発
2: 白江代表を中心に開発に情熱を注いでいます



Report 3 | 三徳屋 (金沢市)

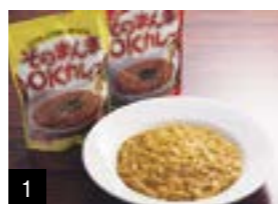
非常食・介護食用に、金沢カレーのゼリー化に挑戦

全国的に人気を集める金沢カレー。そのゼリー化に取り組むのが、カレールーやレトルト食品の製造・販売に取り組む三徳屋です。ゼリー化によるメリットは大きく、ライフラインが止まった災害時でもスプーンを使わずにそのまま開封口から食べられるほか、ツルンとしたのど越しは飲み込みが困難な方の介護食としての需要も見込めます。

同社では味の追求にも余念がありません。

「金沢カレーは、玉ねぎや牛肉を煮詰めて作り、うま味を凝縮します。その製法を生かすことで、常温のままでもおいしくいただける非常食を開発できます」と大聖寺谷勇社長。同社では、既にご飯入りの非常食カレーを販売しており、その技術をベースに2020年までの製品化を目指し、開発に取り組んでいます。

1: 同社が開発した非常用カレーは味わいも好評
2: 新製品開発に知恵を絞る大聖寺谷社長



ものづくり企業特別枠で 企業の成長を総合的に支援

昨年12月には、新ファンド創設後初めてとなる67件を採択。機械や繊維、食品など多種多様な分野の企業の新たな挑戦が始まっています。(5ページに採択企業のインタビューを掲載) チャレンジ支援ファンドでは、新たに「ものづくり企業特別枠」を創設し

関130億円)を運用し、地域資源を生かした新商品開発などを支援してきました。これまでの10年間で支援した商品開発約440件のうち、約9割で商品化を達成しています。国からはこうした高い商品化率と、県と地元金融機関による支援体制が高く評価され、国の出資金がさらに10年間延長されました。チャレンジ支援ファンドでは、中小企業の新たな事業展開を一層後押しするため、県と地元金融機関が出資金をそれぞれ50億円上積みし、サポートを強化していきます。

たのも大きな特色の一つ。特別枠では、活性化ファンドで最大300万円にまで引き上げ、ものづくり企業の新製品開発に関する事前調査から研究開発、販路開拓までを総合的に支援していきます。このほか、他の企業や大学と連携した新商品開発などに対する支援も新たに立ち上げました。東京オリンピック・パラリンピックを見据えた外国人観光客向け新商品・新サービスの開発や販路開拓に対する支援など企業のさまざまなチャレンジをサポートできるものとなっています。

10年間延長を機に ファンドをリニューアル

総額	活性化ファンド (2008年~)	チャレンジ支援ファンド (2018年~)
	300億円	400億円
出資金内訳	国	100億円
	県	70億円
	地元金融機関	130億円

中小企業チャレンジ支援ファンドの創設

中小企業の前向きな取り組みを一層後押しするため、新たに創設したのが、「いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンド」です。これは総額400億円となる全国最大規模のファンドで、その運用益をもとに中小

企業が進める新商品・新サービスの開発や販路開拓などを支援していきます。

チャレンジ支援ファンドは、2008年創設の「いしかわ産業活性化源活用推進ファンド(活性化ファンド)」をリニューアルして立ち上げた基金です。活性化ファンドは、県と国、地元金融機関が出資した300億円(国100億円、県70億円、地元金融機

Support
Menu.1

全国最大規模のファンド創設で 中小企業の新たな事業展開を加速

Report チャレンジ企業

AI・IoTを活用し、業務の効率化に取り組む
企業にお話を聞きました。

Report 1 丸井織物 (中能登町)

織機1000台をIoT化。省力化で生まれた社員の力を創意工夫に

品質はいいものの、どうしてもコストが割高になってしまう——。厳しい国際競争に直面する多くの国内メーカーが抱えるこの課題を解決するための糸口として、国内最大手の織物メーカーである丸井織物では積極的なIoT化に挑戦しています。その一環として、2015年から工場のIoT化を推し進め、約1000台の織機全てにセンサーを取り付けました。センサーを通して機械の稼働状況、糸の張力など、さまざまな情報を自動的に収集した自社独自のビッグデータ(*)を構築。これらの膨大な情報をもとに生産状況をリアルタイムに把握し、不良品が出た時の状況を分析することで、次回に不良品が出ないようにするなどの改善活動へとつなげています。

「異常が出る前に対応することで省力化につながり、生産コストは10%以上抑えられました」と宮本米藏常務は胸を張り、国際競争力も大幅に高まったと言います。さらに、省力化で生まれた社員の余力を、業務改善や新たな事業展開など、機械ではできない「創意工夫」に生かせるようになったのも大きなメリットの一つです。

同社では今後、AIなどの活用も進め、人手で行っている生産計画の修正の完全自動化などに取り組んでいく計画で、最新技術を積極的に生かしたもののづくりに知恵を絞っています。

*一般的な情報処理技術では扱うのが困難なほど大量で複雑なデータ



IoTで1000台もの織機の管理を省力化



工場の効率化を推し進める同社の宮本常務

Report 2 心結 (金沢市)

予約システムにAIを導入。来店者数予測への活用も計画中

金沢を訪れた観光客や結婚式・成人式に臨む県民向けに、レンタル・着付け・撮影を行う心結。同社では、2017年にAIを搭載した予約管理システムを導入しました。システムでは、24時間予約を受け付け、申し込みがあればAIが瞬時に着付けやヘアセットの担当者を割り振りし、利用者に予約確定メールを自動的に返信します。以前は、これらの作業をスタッフが行っていたため、夜間に予約があると、どうしても返信が翌朝以降にずれ込んでいましたが、「即時予約ができ、サービスの向上につながりました」と越田晴香社長は話します。

大幅な省力化にもつながっており、年間1万人の方が利用する同

社では、予約の確認や調整などの業務にスタッフ3人が半日がかりで当たっていましたが、今では30分程度で済むようになったそうです。

さらに、同社では、これらの予約システムを通して収集したデータに、来店実績や観光イベント、天気などの情報を加え、AIが分析することで来店者数を予測する新システムを開発中。「省力化で生まれた時間をお客様が笑顔になれる商品や旅行プランの提案に生かしたい」（越田社長）とのことで、AI導入を機に、新事業創出に向けた動きも活発化しています。

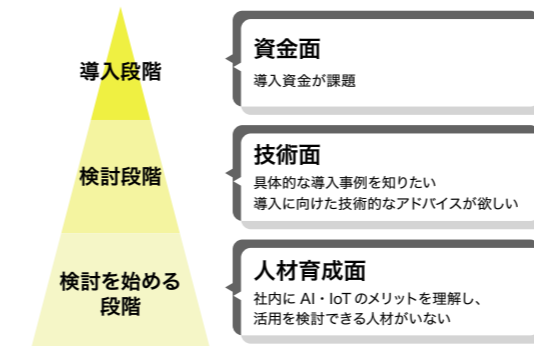


国内外から多くの観光客が来店



越田社長を中心に新たな旅行プランの提案に積極的

AI・IoT導入に向けた総合支援のイメージ



人手不足が深刻化する中、生産性向上のカギとして期待される新技術が、AIとIoTです。県では、ものづくり企業の競争力強化に向けて、2016年度にIoT活用に向けた研究会を立ち上げ、17年度にはAI・IoTの導入に対する設備投資の支援を開始。18年度には、サポートメニューをさ

人材育成から技術、資金面まで一貫して支援

Support Menu.2

AI・IoTの導入に向け 段階に応じてきめ細かく対応

**県工業試験場内に
技術支援工房を設置**

さらに、昨年10月には県工業試験場1階に、「いしかわAI・IoT技術支援工房」を設置しました。これは、どのような設備を導入を進めています。

さらに拡大し、AI・IoTの導入に向け検討を始める段階から検討段階、実際に設備を導入する段階と、ステップに応じたきめ細かな支援体制を構築しました。

検討をスタートし、AI・IoTの活用を検討できる人材を育成したい企業に対しては、AI・IoT実践道場を開講し、座学やデモ機を活用した体験などを通して、新技術に理解を深めた人材の育成をサポートします。設備導入段階にある企業には、資金面での支援を従来の3倍に拡大し、18年度は33件の中小企業が、この制度を活用してAI・IoT設備の導入を進めています。



新技術に通じた人材育成に取り組む実践道場



いしかわAI・IoT技術支援工房では4種類のデモ機を展示し実演

るのが効果的か、具体的な検討を進めたい企業に対する技術面でのサポートの強化を目的としています。

特色の一つが実際の相談事例をもとに製作したデモ機種の展示・実演で、工房内ではベルトコンベアに見立てた模型にセンサーを取り付けてモニターに稼働状況を表示したり、小型の機械に取り付けた振動センサーからの信号をAIが分析し、機械の故障を予知したりするなど、4種類のデモ機器を紹介。これらの新技術で具体的に何ができるかをイメージしやすいう工夫をしています。

また、県工業試験場の職員が企業の現場を訪問し、実情に応じた指導を行うなど、個別の技術相談・指導にも力を入れています。東京大学や産業技術総合研究所の研究者に石川県AI・IoT技術アドバイザーに就任してもらい、国内トップクラスの専門家からアドバイスを受けられる体制も整えています。このほかにも、工房に設置する高性能コンピュータを活用したAIの試作開発支援なども展開。AI・IoTの活用を検討されている方は、お気軽にご相談ください。

いしかわAI・IoT技術支援工房
県工業試験場1階
(金沢市鞍月2丁目1番地)
開館時間/平日9:00~17:00
TEL:076(267)8081

県政のあゆみ

平成が終わるまで残り約3カ月。この30年間には、石川県でもさまざまな出来事がありました。平成の県政史をダイジェストで振り返ります。皆さんは何が一番印象に残っていますか。

平成3 (1991) 年9・10月 第46回国民体育大会を開催

石川県では、戦後間もない昭和22 (1947) 年以来44年ぶりとなる国民体育大会が開催されました。「すばらしき君の記録にわが拍手」をスローガンに、国体史上初めて県内全市町村 (当時41) に競技会場を設け、県民の温かなもてなしと声援を受けながら、全国から集まった選手が連日、熱戦を繰り広げました。開会式には天皇・皇后両陛下をお迎えしました。両陛下は平成の間に、全国豊かな海づくり大会、全国植樹祭にご臨席のため3回来県されています。また、皇太子殿下も、この年開催された全国身体障害者スポーツ大会に臨席されています。平成30 (2018) 年に日本スカウトジャンボリーに臨席されるなど、平成の間に9回来県されました。



平成8 (1996) 年9月 石川県新長期構想 「世界に開かれた文化のくにづくり構想」を策定

昭和63 (1988) 年10月に策定した21世紀へのビジョンを改定し、平成8年～22 (2010) 年までの15年間を計画期間とする新長期構想を策定。環境問題や国際化、情報化、少子高齢化などをにらみ、石川県の成長戦略を描きました。具体的には、基本目標として5つの発展方向を定め、石川県の大きな魅力である“文化”を生かし、世界に輝く地域づくりに取り組みました。構想はその後2回改定し、現在は平成28年 (2016) 年3月に策定した新たな長期構想を基に着実に取り組みを進めています。

平成11 (1999) 年10月 いしかわ動物園が開園



「楽しく、遊べ、学べる動物園」をコンセプトにオープン。平成22 (2010) 年にこの世を去った国内最高齢のカバ「デカ」など、たくさんの人気者たちが来場者の注目を集めました。園内で飼育・展示する動物は、開園時の135種600点から現在は200種3800点にまで増え、希少種の飼育・繁殖などにも取り組んでいます。

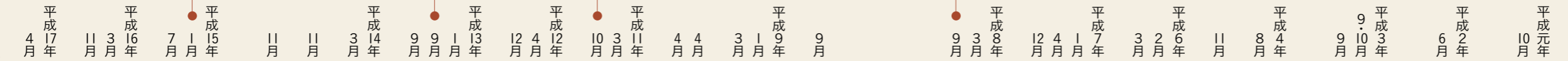
平成13 (2001) 年9月 金沢城公園 「菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓」が完成

県内を代表する観光地の一つ金沢城公園。その復元整備の第1弾となったのが、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓です。これら平成の城づくりは、明治以降の木造城郭建築では国内最大級。木組みに一切くぎを使わないなど県内の職人の技術を結集しています。さらに、これまでに河北門や橋爪門、玉泉院丸庭園も復元。現在は鼠多門と鼠多門橋で史実に沿った復元整備を進めているところで、より一層、魅力を高めています。



平成15 (2003) 年1月 新県庁舎へ移転

金沢市広坂の旧県庁舎 (現しいき迎賓館) から同市鞍月に移転した新県庁舎は、行政、議会、警察本部の3つの庁舎があり、最も大きな行政庁舎は地下2階、地上19階建て。新年の仕事始めとなった1月6日、約2700人の職員が新庁舎での業務をスタートしました。



平成元年 10月
能登海浜道路 (現のと里山海道) 4車線化に向けて調査開始

平成2年 6月
金沢駅付近連続立体交差 (旅客線、下り貨物線) が完成

平成3年 9・10月
第46回国民体育大会を開催
七尾線津幡と倉温温泉間が電化開業、のと鉄道が七尾と輪島間の経営を引き受け

平成4年 8月
北陸新幹線 石動と金沢間と新幹線金沢駅の整備に着手

平成6年 2月
勝木保次さん (医学博士)、蓮田修吾郎さん (工芸家) に名誉県民称号を贈呈

平成6年 3月
中西知事が死去、名誉県民称号を贈呈 (4月) 谷本知事が就任

平成7年 1月
阪神・淡路大震災が発生、被災地を支援
情報公開制度の実施、情報公開総合窓口を設置
行財政改革大綱を策定

平成8年 9月
金沢城址を取得 (金沢城公園整備に着手)
石川県新長期構想「世界に開かれた文化のくにづくり構想」を策定

平成9年 9月
第16回全国豊かな海づくり大会を開催

平成9年 1月
ナホトカ号重油流出事故が発生
50m道路 (金沢駅西口と金沢港交差点) が全線供用開始
消防防災ヘリコプターが運航開始
浅藏五十吉さん (陶芸家) に名誉県民称号を贈呈

平成11年 3月
「ツインブリッジのと」が完成
いしかわ動物園が開園

平成12年 4月
石川県立看護大学が開学
県民栄誉賞を創設し、松井秀喜さんへ贈呈

平成13年 1月
15年ぶりの大雪により石川県道路雪害対策本部を設置
金沢城公園「菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓」が完成
石川県立音楽堂が開館

平成14年 3月
「加賀百万石博」を開催 (平成14年大河ドラマ「利家とまつ」放送)
小松駅付近連続立体交差「小松新駅・高架本体」が完成

平成14年 11月
金沢外環状道路海側幹線「第一期事業区間金沢市福増町と戸水町間」が開通

平成15年 7月
新県庁舎へ移転
能登空港が開港

平成16年 3月
県立高等学校の通学区域の廃止を決定
小松—上海定期便が就航

平成17年 4月
石川県立大学が開学

平成8 (1996) 年9月 第16回全国豊かな海づくり大会を開催

天皇・皇后両陛下をお迎えし、珠洲市蛸島漁港を会場に開催した「全国豊かな海づくり大会」には、水産関係者など全国から約1万8000人が参加。漁業功労者への表彰や海上歓迎行事、マダイやヒラメの稚魚の放流行事などがあり、石川の豊かな海を舞台に海の環境を守る大切さを広く発信しました。



平成9 (1997) 年1月 ナホトカ号重油流出事故が発生

島根県沖で沈没したロシア船籍タンカー「ナホトカ号」から流出した大量の重油が、県内の海岸約250キロにわたって押し寄せました。県では、自治体や住民、ボランティアなどのべ20万人以上の方が参加し、2万キロリットル以上の油を回収。多くの人の手で美しい海を取り戻したこの活動を機に、県内にボランティアの輪が広がりました。



平成12 (2000) 年12月 県民栄誉賞を創設し、 松井秀喜さんへ贈呈



県民栄誉賞は、県民に明るい希望と活力を与え、石川県の名を高めることに顕著な業績のあった方々の栄誉を讃えるために創設しました。その第1号が、この年、読売巨人軍の4番として大活躍した松井秀喜さんです。同賞はその後、五輪で金メダルを獲得した松本薫さん、川井梨紗子さんが受賞されています。

平成14 (2002) 年3月 「加賀百万石博」を開催

大河ドラマ「利家とまつ」の放送に合わせ、金沢城公園二の丸広場で、「加賀百万石博」を開催しました。ドラマで使用した兜 (かぶと) や具足の展示、石川の歴史・文化に触れられるコーナーなど見どころ満載で、翌年1月までの会期中には当初目標の100万人を大幅に上回る156万人の方が訪れました。



平成15 (2003) 年7月 能登空港が開港



地域振興の起爆剤として、7月7日に能登空港 (のと里山空港) が開港し、能登と首都圏をわずか1時間で結ぶ羽田便が1日2往復で就航しました。開港に際し、全国で初めて搭乗率保証制度を採用。搭乗率は、現在まで目標の62%以上を維持し、開港15年目 (平成29年7月7日～30年7月6日) の利用者数は、過去最高の16万2903人となるなど、地方空港の優等生として評価されています。

平成30(2018)年1月

新県立中央病院が開院

老朽化が進んでいた県立中央病院の建て替え工事が完了し、1月9日から外来診療をスタートしました。新病院は地下1階、地上10階建てで、屋上にはヘリポートを設置し、9月からドクターヘリが運航開始。救急医療、周産期医療、がん医療を中心とした高度専門医療を提供するなど、地域の基幹病院として健康面から県民の安全・安心を守っています。



平成27(2015)年3月

北陸新幹線金沢開業、IRいしかわ鉄道開業



県民悲願の北陸新幹線が3月14日に開業し、東京と金沢が最速2時間28分で結ばれました。開業当日は、金沢駅コンコースで午前5時から式典が開かれ、続く出発式では一般入場者ら5000人が一番列車を見送りました。同日、北陸新幹線開業に伴い、金沢〜倶利伽羅間を結ぶIRいしかわ鉄道も開業。石川の交通新時代を迎えた新幹線開業効果はとて大きく、開業4年目を迎えた現在でもビジネスや観光など多方面の活性化につながっています。

平成23(2011)年6月

「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定

国連食糧農業機関 (FAO) の世界農業遺産に、羽咋市以北の4市4町 (現在は宝達志水町以北の4市5町) が申請した「能登の里山里海」が、国内で初めて認定されました。自然と人々が共生する能登の暮らしが国際的に高い評価を受け、県では認定を弾みに里山里海を生かした地域活性化に取り組んでいます。また、平成25(2013)年には、国際機関関係者や関係国政府など世界20カ国から約600人の方が集まり、七尾市を主会場に「世界農業遺産国際会議」が開かれました。



平成19(2007)年3月

能登半島地震が発生

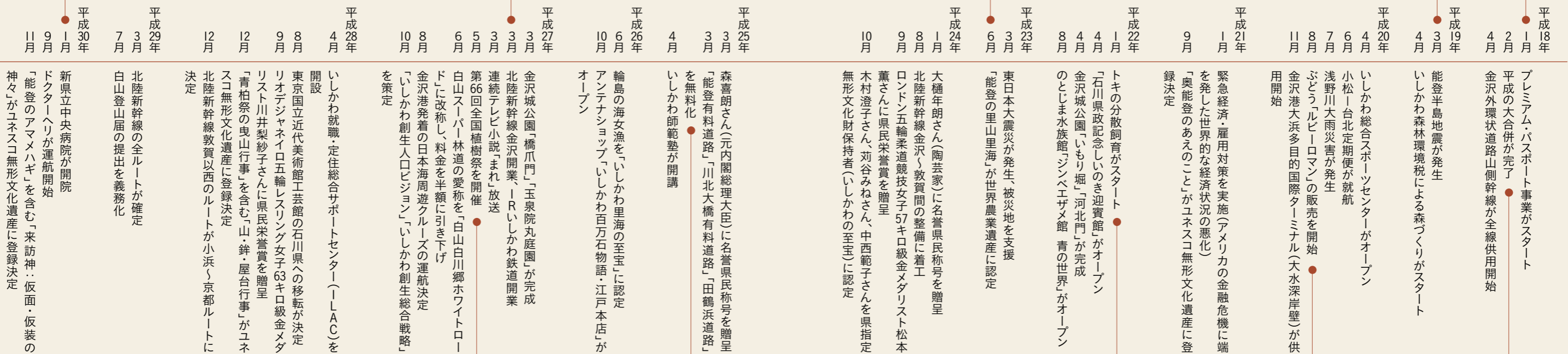
3月25日午前9時42分ごろ、マグニチュード6.9、最大震度6強を記録した能登半島地震が発生。死者1名、重軽傷者338名を数え、一部損壊を含めると約3万戸の住宅が被害を受け、県政史上未曾有の大災害となりました。県では1日も早い復旧・復興に全力を傾け、ゴールデンウィーク前には被害が甚大だった能登有料道路 (現のと里山海道) の応急復旧を完了し、風評被害払拭に向けた大規模な観光キャンペーンも展開しました。さらに、地震を教訓に地域の防災力向上を目指し、けん引役となる防災士の育成に注力。県内では現在、5000人以上の防災士が地域防災のリーダーとして活躍しています。



平成18(2006)年1月

プレミアム・パスポート事業がスタート

18歳未満の子どもが3人以上いる世帯を対象に、全国に先駆けプレミアム・パスポート (略称: プレパス) 事業を開始しました。同事業は県内の協賛店にプレパスを提示すれば、割引・特典などのサービスが受けられる仕組みで、社会全体で子育てを支えることを目的としています。平成29(2017)年からは対象を子どもが2人以上いる世帯に拡大。子どもを生み育てやすい環境の整備に力を注いでいます。



平成27(2015)年5月

第66回全国植樹祭を開催



天皇・皇后両陛下ご臨席のもと、小松市の木場湯公園で「全国植樹祭」が開かれました。全国植樹祭が石川県で開かれるのは、昭和58(1983)年以来2回目。当日は、「木を活かし 未来へ届ける ふるさと森」をテーマに、森林資源を適切に使いながら健全な森を次代に伝える重要性を全国に発信しました。

平成25(2013)年3月

「能登有料道路」「川北大橋有料道路」「田鶴浜道路」を無料化

3月31日、県内3つの有料道路を同時に無料化しました。これは北陸新幹線金沢開業を2年後に控え、その開業効果を県内全域に波及するための取り組みの一つ。合わせて、能登有料道路を「ふるさと紀行『のと里山海道』」に改称。現在は交通量が無料化前の2倍となるなど、能登の一層のにぎわい創出につながっています。



平成22(2010)年1月

トキの分散飼育がスタート

感染症などによるトキの絶滅を防ぐため、新潟県の佐渡トキ保護センターから4羽のトキがいしかわ動物園に移送され、分散飼育が始まりました。いしかわ動物園では、これまでに63羽のヒナを育てることに成功し、うち42羽が佐渡で放鳥され野生復帰しています。平成28(2016)年にはトキ里山館がオープンし、一般の方もトキの姿を間近に観察できるようになっています。また、平成29(2017)年6月には、同じく絶滅危惧種であるライチョウの人工ふ化に成功し、平成30(2018)年度中の公開を予定しています。



平成20(2008)年8月

ぶどう「ルビーロマン」の販売を開始



平成7(1995)年から開発・研究を進めてきたぶどうの新品種「ルビーロマン」が金沢市中央卸売市場に初出荷されました。ルビー色の太粒の実は、上品な甘さでとてもジューシー。瞬間に高級ぶどうとして注目を集め、平成29(2017)年の初競りでは1房に現在までで最高の111万円の値が付きました。

平成16(2004)年~18(2006)年 平成の大合併

合併特例法の制定をきっかけに、全国的に市町村合併が進みました。県内でも平成16年3月に合併したかほく市(旧高松町・七塚町・宇ノ気町)をはじめ、18年2月に門前町と輪島市が合併した新たな「輪島市」まで、10地域で新市町が誕生。県内41市町村は19市町に再編されました。



EVENT
能登

能登ふるさと博

カニやかき、ふぐ、あんこう
極上グルメを堪能あれ

能登半島全域をパビリオンに見立て、1年を通してさまざまなイベントを開催中の「能登ふるさと博」。目玉は旬の幸がずらりと並ぶ“うまいもんイベント”です。輪島ふぐのさまざまな料理が味わえる輪島市のにぎわい大市(2/16・17)や、新鮮な能登かきをその場で炭火焼きにして食べられる七尾市の七尾湾能登かき祭(2/23・24)などがあり、冬の味覚を存分に味わえます。

さらに、能登立国1300年を記念して、3月まで輪島市と珠洲市の飲食店や宿泊施設などで1300円からのお得なメニューを

提供中。輪島は日本一の漁獲量を誇る天然ふぐ、珠洲では奥能登名物のあんこうを使った料理を特別価格で堪能できます(一部要予約)。

ほかにも、能登の酒蔵めぐりや、能登84カ所の郵便局を巡るスタンプラリーなども実施しています。詳細は、「能登ふるさと博」のホームページをご覧ください。



●問い合わせ
能登ふるさと博開催実行委員会/事務局：県観光企画課 TEL076 (225) 1542

EVENT
金沢市

冬の夜のマジカルセッション“出逢い”

玉泉院丸庭園を舞台に
ライトアップとロックが融合

金沢から新たな音楽文化を発信するイベントで、今回で3回目の開催となる「冬の夜のマジカルセッション“出逢い”」。この一環として、金沢城公園玉泉院丸庭園で期間限定の『プログレッシブロックライトアップ』を開催します。

プログレッシブロックとは1960年代後半にイギリスで登場した革新的なロック音楽のこと。ライトアップで彩った庭園が、県観光ブランドプロデューサーでもあるシンガーソングライターの松任谷由実さんらが選んだ名曲に包まれ、伝統と革新が融合したコンサートホールへと生まれ変わります。

DATA
■入園料：無料 ■日時：2月8日～10日、15日、16日
①17:30 ②18:30 ③19:30 ④20:30 (各回20分)



© Masaaki Miyazawa

●問い合わせ 県誘客戦略課/TEL.076 (225) 1537

にぎわい大市(輪島市)



DATA

■入館料：無料 ■開館期間：5月6日まで(年末年始休館) ■開館時間：10:00～16:00

SPOT
白山市

ブナオ山観察舎

野生動物を観察し、
かんじきハイクに挑戦



白山市尾添の白山一里野温泉スキー場近くにある「ブナオ山観察舎」では、対岸のブナオ山南斜面に生息するニホンカモシカやニホンザル、上空を飛翔するイヌワシなどの野生動物をありのままの姿で観察できます。さらに、土・日・祝日(積雪時限定)には、かんじきを履いて職員の解説を聞きながら自然の中を歩くかんじきハイクが人気です。当日参加もできます。お気軽にご参加ください。

●問い合わせ ブナオ山観察舎/白山市尾添ソ 72-5 TEL.076 (256) 7250

SPOT
金沢市

健民スポレクプラザ

県内唯一のアイスリンク
スポーツでリフレッシュ

外が寒いからといって、家の中でずっとごろごろしていませんか。時には体を動かすことが大切です。金沢市の健民スポレクプラザには県内唯一のアイスリンクがあり、気軽にスケートを楽しめます。平日は曜日により、一般の利用料が半額となるサービスデーもあります。また、団体利用の場合は、県スケート連盟の指導員による初心者向け教室も実施しています(要予約)。

DATA

【アイスリンク】■利用料：一般1020円、高校生以下720円、幼児410円、貸スケート靴410円 ■営業期間：6月30日まで(期間中無休) ■営業時間：10:00～17:00 (入場は16:30まで)

●問い合わせ 健民スポレクプラザ/金沢市西泉 6-188 TEL.076 (247) 8999



冬

のお出かけ情報

家族みんなが笑顔に！

おすすめ のスポット & イベント

県内には、冬の今だからこそおすすめしたいスポット&イベントがいっぱい。小さな子どもからお年寄りまで、家族みんなが笑顔になれるお出かけ情報を紹介します。

みんなで
出かけよう



SPOT
白山市

石川県ふれあい昆虫館

ドアの向こうは“常夏”
チョウの楽園に行こう

白山市の石川県ふれあい昆虫館の人気施設「チョウの園」。ドアを開けると、そこには“常夏”の空間が広がっています。園内では、オオゴマダラやリュウキュウアサギマダラなど、約10種類、およそ1000匹の南国のチョウたちが美しい羽を揺らしながら自由気ままに飛び回っています。ほかにも、館内では、虫と触れ合えるコーナーがいろいろ。子どもと一緒に、小さな昆虫ワールドをお楽しみください。



DATA

■入館料：一般410円、高校生以下200円、小学生未満無料(火曜休館) ■開館時間：9:30～16:30(4～10月は17:00まで。入館は閉館の30分前まで)

●問い合わせ 石川県ふれあい昆虫館/白山市八幡町戊 3 TEL.076 (272) 3417

昨年11月にあったトランポリン世界選手権（ロシア・サンクトペテルブルク）のシンクロアイスドで、金沢学院大学（金沢市）OGの宇山芽紅さん、同大学1年の森ひかるさんのペアが金メダルに輝きました。その快挙をたたえ、12月に県スポーツ特別賞を受賞したお二人に喜びの声を聞きました。



トランポリン選手

森ひかるさん 宇山芽紅さん

密度の濃い練習で金メダルを獲得

トランポリン世界選手権での金メダルは、日本女子史上初めての快挙です。その時のお気持ちを聞かせてください。

森●実は、大会中はシンクロ種目の後に個人種目があり、すぐに気持ちを切り替えたので、余韻に浸っている時間はあまりありませんでした。ですから、金メダルの重みを実感できたのは帰国してからです。多くの方に空港で出迎えていただき、ふつふつと喜びがわき上がってきました。金沢学院大学にも記念のポスターがたくさん貼ってあり、少し気恥ずかしいのですが、大変うれしかったです。

宇山●私は大学卒業後、地元の千葉でトランポリン教室の指導をしています。「先生すごい」と、子どもたちが喜んでくれる姿がうれしかったですね。金メダルにもたくさん触ってもらいました。

シンクロ種目は技の難度や演技などに加え、息の合った同時性も求められます。ただ、代表メンバーのケガなどもあり、お二人のペアが決まったのは、大会直前だったそうですね。

ほどこがなく、正直、不安な気持ちはありませんでした。それでも、出場できない仲間の思いや指導いただき先生の期待を力に、1本の跳躍もムダにしないよう練習に励みました。

宇山●本番までの1週間は、森選手に自身の弱点も何でもさらけ出しました。時間のない分、コミュニケーションで信頼関係を深め合えたことが、金メダルにつながったのだと思います。

大会後のご褒美は石川のおすし

お二人は関東出身で、高校生の時に金沢に來られました。

森●石川県はトランポリン王国で、男子も女子も国内のトップ選手がたくさんいます。宇山●普段の練習からレベルが高く、この環境だったから成長できたのだと感じています。

宇山選手、森選手ともに大好きな石川の食があるそうですね。

森●実はおすしが大好きなんです。石川に來てから、そのおいしさにびっくりしました。海外の大会から石川に帰って來たら、ご褒美としていつも食べに行きます（笑）。

宇山●それに石川県の皆さんは

とても温かいですね。大学卒業後は地元の千葉で暮らしていますが、石川に來る度に、「ただいま」と故郷に帰って來たような安心感があります。

今後の目標について教えてください。

森●昨年はアジア大会で個人2位になり、世界選手権の個人でも5位に入ることができ、自信を深められた1年でした。この2月から東京五輪の出場がかかる大会が始まります。五輪でのメダルに向けて挑戦していきます。応援をよろしくお願いします。

宇山●昨年はシンクロの金メダルなど、成長につながられた年でした。それでもまだ、東京五輪出場に向けたスタートラインにようやく立ったところ。第二の故郷である石川県の皆さんの応援も力に、夢舞台への切符をつかみたいと考えています。

PROFILE

宇山芽紅（うやま・めぐ）。1996年1月14日生まれ。千葉県印西市出身。中学卒業後、金沢学院東高校（現金沢学院高校）に進学。金沢学院大学卒業後、スポーツクラブテン・フォーティーに入社。2018年、アジア大会で個人4位、世界選手権大会で個人8位に入賞を果たした。

森ひかる（もり・ひかる）。1999年7月7日生まれ。東京都足立区出身。2015年に金沢学院高校に転入学。18年に金沢学院大学に進学。13年に全日本選手権大会の個人で優勝。17年の世界選手権大会で日本女子史上初のシンクロ銀メダル、18年のアジア大会では個人銀メダルを獲得した。

石川県の皆様へ

トランポリン王国、石川で育った感謝を胸に

夢の東京五輪へ

平成も、あと少しを残すばかりとなりました。この30年余を振り返ると、まず思い起こすのは、歴史に刻まれる大きな事故や災害に見舞われたことです。わが石川県でも、平成9年のタンカー重油流出事故、19年の能登半島地震などがありました。

重油流出事故では、石川の美しい海岸線が一面、黒い重油で覆われました。ふるさとの海を危機から救ったのが、無数のボランティアの皆さんでした。雪まじりの寒風と鼻をつく異臭のなか、バケツと柄杓を手に黙々と重油を回収される姿に目頭が熱くなりました。

全半壊が2千棟にも及んだ能登半島地震。一刻を争う住民の安否確認が短時間ですんだおかげで、建物内での犠牲者をひとりも出さずにすみました。こんな奇跡を可能にしたのは、ふだんから地域で家族状況を把握するネットワークができていたからです。

重油流出事故と能登半島地震に共通するのは「人の絆」であり、これこそが石

人の絆と個性の輝き 石川の宝を新時代へ

川の宝です。もうひとつは、心を潤す文化が暮らしに溶けこみ、本物の日本にふられる石川の「個性」。北陸新幹線金沢開業から4年近くがたつた今も、国内外の多くのゲストを引きつける理由は、この個性があるからにほかなりません。

平成は変化の目まぐるしい時代でした。特にデジタル技術の進化が、社会、産業、ライフスタイルを一変させました。ますますそのスピードが加速しそうです。が、それに振り回されず、石川の個性をもっと磨いて輝きを増やすことが、今を生きるわたしたちの責務だと感じています。

平成27年、全国植樹祭で「来県になった天皇皇后両陛下に随行した思い出がよみがえります。仲睦まじく寄り添われたお二人は、出迎えの方々にも随所でこまやかな気遣いをされ、生まれた感動の波が静かに広がり周囲を温かく包み込みました。そんな両陛下を間近でご覧になった皇太子殿下が即位される新時代。まず、穏やかであることを祈念するとともに、「石川の宝を大切に受け継いでいきたい」との思いを新たにしています。

smile 石川のボランティア



声のボランティア (内灘町)

毎月、町の広報誌を音読 視覚障害の方々に 声で情報を届ける

さまざまなイベントやお知らせなど、市町が発行する広報誌には、住民にとって身近な情報がたくさん載っています。内灘町のボランティアサークル「声のボランティア」では、同町が毎月発行する『広報うちなだ』を全ページにわたって音読。その声をCDに入れて、内灘町社会福祉協議会の職員が町内の視覚障害者の皆さんに届けています。

メンバーは現在14人で、広報誌発行直後の火曜、金曜に活動しています。1日目はページの割り振り、2日目は



耳で聞いて分かりやすいよう、読み方に注意しながら録音しています



プロから読み方について学ぶ講習会も開催しています

●問い合わせ
声のボランティア
代表：大谷佳子
TEL 076 (286) 6953 (内灘町社会福祉協議会)

録音作業をしている一方で、「無理のない範囲で、少しでも人の役に立てれば」との思いで続けています」と代表の大谷佳子さん。メンバーみんなで顔を合わせ、「世間話に花が咲くのも楽しい」と話してくれました。一方で、皆さんはスキルアップにも熱心で、年に1度はアナウンサーの先生を招いて発声や伝わりやすい声の強弱のつけ方を学んでいます。昨年からは、広報誌に加え、年4回発行する町の『議会だより』の音読も開始。内灘町の情報は、優しい声とともに多くの人に伝えられています。

結婚を予定されているカップル、新婚夫婦の皆さんへ

婚パスはお持ちですか?

「石川しあわせ婚応援パスポート」(愛称:婚パス)は結婚を予定している方や新婚のご夫婦が協賛店舗で特典やサービスを受けられるお得なパスポート(最長2年間利用可能)。地域ぐるみで結婚を応援しています。



利用対象

- 1年以内に結婚を予定しているカップル (どちらか1人が石川県内に居住または婚姻届提出後1年以内に県内に居住予定の方)
- 結婚後1年以内(2018年4月以降に婚姻届提出)の新婚夫婦(どちらか1人が県内に居住)

協賛店舗

ホテル・旅館、結婚式場、旅行代理店、金融機関、不動産・住宅など、県内500以上の店舗で利用可能



婚パスの取得は今すぐ! ホームページから簡単に

婚パス

検索



Instagramでも「婚パス」で検索!

店舗の最新情報は
こちらから



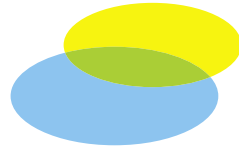
● 問い合わせ | 公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団 いしかわ結婚支援センター(婚パス事務局) TEL.076 (255) 1535

私にとっての豊かな老後とは、
子どもに迷惑かけずに生きることです。



人生を、満開に。

広告



ワオリティ・シニアマンション スプリングライフ金沢

三谷商事グループの介護付有料老人ホーム



「天然温泉」※1
掛け流しの大浴場と
露天風呂。



朝昼晩、
メニューを選べる
お食事をご予約不要
で毎日ご用意。※2



24時間体制での
終身介護を実施。※3

資料請求・ご見学・体験入居のお問い合わせは

☎ **0120-132-871**

スプリングライフ金沢

検索

パンフレットを
お送りします▶



ゆとりの「一般居室」と
安心の「介護居室」

24時間の
介護・看護体制。※3

終身介護をお約束。※4
介護居室への住み替え費用も不要。

経験豊富なスタッフ&
充実した共用施設。

※1 天然温泉: [泉質] ナトリウム、カルシウム塩化物強塩泉 [効能] 神経痛、関節痛、冷え性、慢性婦人病 等
当ホームの天然温泉は、泉温が高いので井戸水を加水しています。※2 写真は実際のお料理の一例です。※3
夜間時(17:30~翌8:30)は看護職員1名・介護職員2名(最少人員各1名ずつ)の配置となります。※4 入居者の
行動が、他の入居者又は、従業員の生命に危害を及ぼし、又は、その危害の切迫した恐れがあり、かつホームにお
ける通常の介護方法及び接遇ではこれを防止することができないときは、契約解除となる場合がございます。

事業主体 / スプリングライフ金沢 株式会社 ※当社は三谷商事グループの100%出資による会社です。

石川県 金沢市栗崎町4丁目80番地2 Tel.076-238-8000 Fax.076-237-2323 http://springlife.jp/
(公社)全国有料老人ホーム協会 正会員 金沢市指定介護保険特定施設(一般型特定施設) / 金沢市指定第1770100012

前略 石川県知事

県政に対する
ご意見・ご提言を
お寄せください



住所・郵便番号・氏名・年齢・職業をご記入の上、
郵便またはファクスでお送りください。

〒920-8580 (住所の記入不要)
石川県広報広聴室「前略 石川県知事」あて
TEL.076 (225) 1362 FAX.076 (225) 1363

ふるさと納税

「ふるさと石川」の魅力アップに活用します。
県外在住のご協力者を紹介してください。

● 問い合わせ
石川県県民交流課 TEL.076 (225) 1361
www.pref.ishikawa.lg.jp/kenmin/furusatonouzei/



環境保護のため、大豆インクを使用しています。紙は資源です。リサイクルしましょう。